

揭示文書

課題名「ヒト脳腫瘍由来検体資源の構築」

1. 研究内容

いまだ難治性疾患である脳腫瘍に関する研究は多様化・複雑化しています。病気のメカニズムを解明し、新たな治療法を開発するためにはより多くの脳腫瘍に関連する検体の解析が必要です。そこで本課題では、脳腫瘍患者様由来の検体を複数の施設から体系的に集積、資源化し、脳腫瘍に関する多くの研究プロジェクトに利用することを目的とします。検体について、疾患に関わるさまざまな分子の遺伝子やタンパク発現を網羅的に解析することにより、腫瘍の多様な生物学的特性を明らかにすることができると考えられます。

2. 対象

2009年12月から2014年3月の間に金沢大学附属病院で脳腫瘍と診断された患者様のうち、開頭腫瘍摘出術あるいは生検術が行われた方を対象とします。

3. 研究の方法

金沢大学附属病院で患者様から採取された血液、脳脊髄液、腫瘍組織から遺伝子およびタンパク質を抽出します。また、病理標本を作成します。これらを用いて腫瘍に発現する様々な疾患関連分子の機能や発現の程度を解析し、疾患特異的なバイオマーカーの開発や新規治療の理論的根拠の確立を行います。

4. プライバシーの保護について

本研究調査を行うにあたっては、患者氏名や患者番号などを取り除いた情報を使わせて頂きます。このような情報を除いたものであっても金沢大学附属病院脳神経外科の管理者が責任を持って厳重に保管します。集計したデータについては本研究のためだけに使用し、最長5年間保管管理を行った上で廃棄する予定となっています。

この研究調査の対象となる方々については、ご協力いただけるか否かについては自由意思です。情報の使用を希望されない方はお手数ですが、2016年6月30日までに金沢大学附属病院脳神経外科までご連絡いただけますようお願い致します。また、一旦同意なさる意向でご連絡なさっていない場合についても上記期間内であればその時点でデータを取り除いた状態で集計報告を行います。

なお、参加を希望なさらない方について、今後本疾患に関する検査や治療を行う際に不利益となるようなことはありません。